

2022年04月22日号 10面 No.05

支店長／日本道路関西支店長・白川一浩氏／出会いから自身の成長を



白川一浩氏

大阪・関西万博の開幕まであと3年。「今後本格化する工事に向け、どう動くかが重要になる」。一方で民間工事の受注にも力を入れる。

「関西では民間工事が売り上げの7割を占める。当社には廃ペットボトルを有効活用した環境にやさしい高耐久舗装があり、しっかりアピールすることで直接受注を伸ばしたい」。

4月から清水建設の連結子会社になった。「老朽化した床版の大規模修繕工事などへの参加を視野に入れた維持更新など、土木工事分野を強化したい」。互いの知恵や技術を共有し、人材交流にも期待する。

入社以来、30カ所近くの事業所を渡り歩いた。「そのおかげで人脈が広がり、どこに行っても声を掛けられ、多方面で支えてくれる」。若手社員には「多くの人と出会う中でいろいろな意見や考え方を吸収し、自身の成長につなげてほしい」。何よりも「固定概念を捨て、違った目線で考えてほしい」と言う。「斬新な意見やアイデアを期待しながら改革を進めないで時代に乗り遅れてしまう」と危機感を強める。

働き方改革を推進するためにICTを活用するのはもちろん、「仕事を効率化するには、どうすべきかを考えてほしい」とも。座右の銘は「一期一会」。

(4月1日就任。東京農業大学農学部農業工学科卒。長崎県出身、54歳) (しらかわ・かずひろ)

Copyright (C) 2022 日刊建設工業新聞社. All Rights Reserved.